

# 第42回全国高等学校総合文化祭出場 信州そとうぶん満喫レポート

新聞部門は平成30年8月9日(木)～11日(土)の3日間に渡って、長野市若里市民文化ホールで交流新聞制作に取り組んだ。全国の高校生が1班6名の48班に分かれて長野県各地取材し、親睦を深め、新聞制作の技術向上を目指す。ここでは八工新聞部長せいらの交流新聞制作を紹介しよう。

私(部長せいら)は、青森・埼玉・福井・滋賀・高知・宮崎県の高中生6人班に配属された。初対面時、皆が緊張して全く話すらしないサイレン

トなスタートに不安が高まる。交流会の「信州クイズ」で仲間

くなれたので、ほっと一安心。この後、編集会議を経て、割り

付け担当に挙手した僕は、宿題をホテルに持ち帰り、深夜4時

に風呂に水没することとなる。2日目の研修取材は善光寺へ。

色々な店が並ぶ仲見世通りでの食

不足の私は途中でバテてしまう。メン

バーの優しさに涙しつつ、今後はし

動してこの心で頑張ろう。3日目の最終制作では、少

でも良いものにしてしようと、全員で新聞を仕上げていたので良

かった。予定時間を少々オーバー

ができた。新聞部室前で公開中です。ご

ください。次に、2日目の研修

取材で訪れた善光寺について紹介

しよう。



↑若里市民文化ホール前で



↑制作した交流新聞の表面



→制作した交流新聞の裏面はせいらが割り付けた

信州なび助

# 光寺めぐり

「文化部のインターハイ」と称される第42回全国高等学校総合文化祭が平成30年8月7日(火)～11日(土)の5日間に渡って、長野県17市町で開催された。大会テーマは「みすずかる信濃に若木は競い森を深める 山脈(やま)渡る風に種子(たね)を拡げて」だ。吹奏楽・写真・囲碁など28部門に全国から2万人が集まり、日頃の成果を競った。

新聞部門には、我が八工新聞部記者、部長せいら・副部長かずきの両名が参加した。



↑いよいよここから本堂へ

# 一生に一度は善光寺詣り

皇極3年(644年)に創建された善光寺。日本でも最も古い仏像と言われる一光三尊阿弥陀如来様を御本尊として祀っており、極楽往生を約束する国宝の寺院として親しまれている。どの宗派にも属さない全国的にも珍しい無宗派の寺で、誰でも参拝出来る門戸の開かれた寺として古くから信仰を集めてきた。境内地入り口から続く石畳を歩き、仁王門、山門を抜けて、本堂へ。現在の本堂は宝永4年(1707年)の再建で、江戸時代中期を代表する仏教建築として国宝に指定されている。T字型の棟の形が鐘を叩く撞木(しゅもく)に似ていることから「撞木造り」と呼ばれ、屋根は総檜皮(ひわだ)葺きだ。最奥の瑠璃壇には、御本尊・一光三尊阿弥陀如来様が祀られている。



# 「信州そば」と

# 「馬刺し」を味わう



そばと馬刺しを前に 記者かずき(左)とせいら(右)

「信州そば」は長野県の名物。時代から親しまれている。なかでも「戸隠そば」は日本三大そばの1つに指定され、江戸

そばをいただいた。ここは、「お洒落で綺麗」メニューが豊富

あるからいつ来ても楽しめる」とネットでも高評価のお店だ。期待大きく「鴨汁せいろそば」注文した。そばはコシがありつつも、意外にも

柔らかくても驚いた。鴨汁はともかくが、関西と違い、汁がとて濃かった。少しお湯で割った方が私たち関西人にはあうと思った。最後にはもちろん、そば湯も堪能した。

そばの濃厚な味が、馬刺しと合わせて美味い。

そして、一度食べてみたかった「馬刺し」に挑戦。長野に来て

早々「馬刺しが食べたい」と言い放つ僕に、「(高校生らしく)そばとかおやかとか言えよ」的な視線が突き刺さっていたのをものともせずパクリ。「馬肉は臭みがあるのかな」と思っていたが、食べてみると臭みはなく、部位によって、柔らかいところ、かみごたえのあるところ、とても美味しかった。

そばはヘルシーで、付け合わせもいろいろ。がつりいきいたいときは天ぷらだつて、馬刺しだつてある。長野ならではの美味い店舗が沢山あるので、昼・夜連続でもいくらでも食べられると思った。(星)



馬刺し部位によって歯ごたえが違う